



口加だより

平成 28 年 3 月 24 日 発行
長崎県立口加高等学校
第 12 号

あやめが丘の窓から

一沈一珠

校長 下釜 祐保



1 月は「行く月」、2 月は「逃げる月」、3 月は「去る月」と言うらしい。今年の 3 月もまた去ってしまいそうだ。3 月で忘れてならないのは、やはり「あの日」だろう。3 月 11 日。あの日からもう 5 年。長崎新聞 1 面の見出しは「避難なお 17 万 4000 人」だった。改めて、奪われた多くの尊い命に合掌し、被災地の一日も早い復興を祈るとともに、九州は少し遠いところだけど何かひとつでも手伝えることには取り組みたい。

毎年、東日本大震災の報道を見聞きすると、岩手県三陸地方の海女さんの言葉「一沈一珠（いっちゃんいっしゅ）を思い出す。いったん海に潜ったら、どんなに息が苦しくなっても一個の真珠貝を見つけ出すまで決して浮上しない、そうだ。

今月の初日に、本校第 68 回卒業式を挙行了。在校生を代表して井上春花（2 年）さんが「(先輩方は) 困難に対処する力と、仲間をつくる力を育ててくれました。その力を発揮し、地域や日本のリーダーとなっていたら」と饒の言葉を送った。これに対し、卒業生代表の馬場優斗くんは「どんなに辛く、苦しいことがあっても、この学び舎で育んだ力を支えとして必ず乗り越えていける」と答辞で誓った。さらに「この口加高校で心身ともに大きく成長した」と一沈一珠だった 3 年間の日々を振り返った。

そして今日は、本年度の人事異動により、本校を支え、口加の若者たちに生きる力を教授した先生方が本校を離任される。この一校での幾多の働きに感謝が溢れ止まらない。次なる任地でも一沈一珠のご活躍をお祈りし、涙を拭きたい。

1, 2 年生もまた次なるステージに進む。間もなく新しい後輩を迎える。新たなる出会い、新たなる挑戦、そして、新たなる成長。その青春のどんな瞬間からも必ず一つの真珠貝を見つけ出していく、そういう生き方を期待して、第 3 学期の終業式としたい。



職員ペンリレー 『スキ』 片山司朗

今まで何百人という人たち（生徒だけでなく、同僚や友人を含め）と接する中で、同じことをしているのにも関わらず正反対の評価を受ける場面をよく見かけます。その違いとは、誤解を恐れずに言うところ、『かわいげ』にあるのではないのでしょうか。もちろん外見上のことではありません。かわいげがある人とは自分の短所を普段から包み隠さないことによって、逆にそれさえも魅力にしているような人のことと定義します。

そしてそのような人たちにもう一つ共通していることは、その欠点をただそのままにしているだけではなく、ほかの長所をのばしているように思えます。

そう考えると『かわいげ』とは『スキ』にはほかならないのではないのでしょうか。知識や技術に長けた人が、短所などを惜しげもなく見せると、とっつきにくさが取れて好感が持てます。

『スキ』のある人間に成長していきたいものです。

離任される先生方



「一期一会」
今後も生徒とかかわり、地域とかかわり、瞬間瞬間を大切にしていきたいと思います。2 年間、ありがとうございました。

中田克之 教頭先生→島原高校



4 年間、お世話になりました。口加高校は 7 年ぶりの進学校だったので、3 年間、毎日が受験生のような生活でした。記憶を確かめ、論説文を読みながら、知識を高め、自らも受験問題に挑みました。高校生も 3 年間。できてできなかった、こつこつがんばる人がいいなあ。4 年目のこの 1 年間は周囲を見る余裕がやっと生まれました。ああ、本当に素晴らしい子供たち、先生方なあ。皆様との出会いに感謝です。ありがとうございました。

水田伊七章先生→島原高校定時



生徒たち、先生方や地域に支えられ、御世話になった 7 年間でした。刺激的で充実した生活を送れて感謝しています。生徒のみんなは、今やるべき事をしっかりやって目標達成を目指してほしい。口加高校ありがとう！

上野陽一 先生→長崎西高校



皆様のお蔭で充実した 6 年を過ごすことができました。皆様のご健康とご活躍をお祈りして、お礼の挨拶とさせていただきます。

樋口賢也先生→国見高校



豊かな自然と教育環境に恵まれ、何より素直な生徒達とともに学べた 12 年間は、本当に幸せな時間でした。ありがとうございました。

中村敏広 先生→島原高校



この 5 年間で、のべ 946 名の生徒と出会うことができました。たくさんのお会いに感謝しています。ありがとうございました。

井手克宏 先生→諫早高校附属中学校



たくさんの生徒と出会いました。大切な家族が増えました。6 年間、本当にありがとうございました。

吉田沙奈美 先生→佐世保中央高校通信



今の心境を一言で申せば『小学 1 年生として入学して来た少年が、中学 2 年生を迎える時の気分です』・・・(笑)。みなさんに成長を見届けていただけた事に感謝です。ただただ有り難うございました。

上野 博先生→佐世保西高校



海・山に囲まれ、美しい中庭と伝統のある口加高校を離れるのはとても寂しく思います。明るく素直な生徒と共に過ごした日々はとても楽しかったです。本当にお世話になりました。

横田恵梨子 先生→長崎東高校



笑顔で声をかけてもらっただけで、人ってこんなに元気を分けてもらえるんだなど、素直でかわいい生徒たちのおかげで気づきました。今まで本当にありがとうございました。

樋口亜紀子 先生→五島海陽高校



H25 年から 3 年間、有意義な時間を過ごせました。お世話になりました。

村中浩一郎主任主事→国見高校



あっという間の 1 年間でした。口加高校での生活はとても充実しておりました。口加高校で出会えた方々に感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

中村比勇 先生→長崎工業高校



長いようで短かった 1 年 10 ヶ月でした。素朴で元気なみなさんからたくさんのパワーをいただきました。ありがとうございました。

橋口 州 先生→佐世保中央高校定時

生徒指導部より

生徒指導主事 上野 陽一

今や多くの子供たちが、スマートフォン、ゲーム機等インターネットに自由にアクセスできる環境にあり、LINE、フェイスブック、ツイッター等のコミュニティーサイトにより、大人が知らない新たな人間関係を築いています。その中で、さみしい者同士がつながって家出をしたり、悪意のある大人にそそのかされて性的被害を受けたり、という子供たちが後を絶ちません。また、コミュニティーサイトへの書き込みが原因でトラブルになり、いじめや不登校、暴行・傷害事件に発展するケース、ネット依存症になり昼夜逆転の生活になるケースもあり、インターネットの問題が子供たちに大きな影響力を及ぼすことが窺えます。

スマホを持つことで起こりうるトラブル、危険性について、家族でしっかり確認する必要があると思います。

本校では、生徒会から午後9時以降のLINE、フェイスブック等の利用を控えるよう呼びかけています。自分自身だけでなく、友人にも迷惑がかからぬようにしたいものです。

進路指導部より

進路指導主事 井手 克宏

本年度の補習、対外実力テスト・模擬試験、進路講演会や進路説明会などの様々な進路行事が保護者の方々のご理解とご協力によって計画通りに実施できましたことを、心より感謝申し上げます。

さて、本年度の卒業生99名の進路実績（合格者延べ数）は本日（3月24日）現在で、次の通りです。

国公立大学	23名	私立大学	56名
医療系専門学校	34名	その他専門学校	6名
短期大学	8名	一般就職・公務員	2名

国公立大について、長崎大学、熊本大学、長崎県立大学などに合格。特に地元長崎においては、難関である長崎大学薬学部を始め、両大学で10名（長崎大7名、県立大3名）が合格を勝ち取ってくれました。私立大学については、立命館大学、西南学院大学、福岡大学などに合格。専門学校については、公立の佐世保市立看護学校など多数の合格を果たしてくれました。特に医療系の専門学校に進学する生徒が多く、専門学校全体の85%を占めています。就職については、一般就職1名、公務員1名が合格という結果でした。

将来の仕事を見据えて第一希望合格を目指し続けた生徒たちの頑張りに敬意を表したいと思います。それぞれの生徒が、新たなステージで新たな挑戦をし、大きく成長して欲しいと願っています。

最後に、来年度も生徒全員の進路希望を達成できるよう尽力してまいりますので、どうか今年度同様、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

第1学年主任挨拶

第1学年主任 田中和秀

早いもので、入学してから1年が経とうとしています。入学式の時にお話ししたように、学年キャッチフレーズを「ambitious!70th」、今年度の学年目標を「礎」として3年後を見据えて指導してきました。第1学年とは、3年間の土台を築く期間です。入学当初は、挨拶、時間厳守、掃除など繰り返し指導される姿がよく見られました。しかし、最近では「**当たり前のことが、当たり前前**」できるようになってきたと感じます。学習においても、高校生としての学習習慣が身についた生徒も多く、成績も顕著に伸びてきました。また、学年キャッチフレーズの具現化として、計画的に進路学習を進めてきました。その結果、個人ごとにライフプランを作成し、将来に対する目標を設定しました。これは、「**人は目標を持つことで、より前向きに頑張れる**」と考えたからです。

来年度は中堅の学年として、様々な場面で中心となつての活躍が期待されます。常に目標を持ち、前向きに学校生活を送ってもらいたいと思います。つらいこともあるかもしれませんが、今ではなく先を考えての指導であることをご理解いただき、ご家庭のご協力をお願いいたします。最後に、『**過去の積み重ねが未来の自分を作る**』という言葉を一年生のみなさんに送ります。

第2学年主任挨拶

第2学年主任 松竹一成

この1年間の主たる目標を「進路意識の向上と目標設定」と掲げ、進路講演会やコース別説明会などで、次のステップへの準備や考えていくべきこと、具体的な目標に向けて継続していくべきことを確認してきました。1年間を振り返って、そして、最高学年になるにあたって、特に意識してほしいこととして「**時間（スケジュール）の管理**」を挙げたいと思います。進路決定まで残された時間は限られています。ここから先の時間を無駄に過ごすわけにはいきません。具体的な見直しや計画が必要となります。例えば、1日のスケジュールを見て時間の使い方を間違えていないか、無駄にしているか確認する。春休み期間に苦手科目（分野を絞ってもよい）を克服する、成し遂げたいことについて計画を立てる。様々な見直しや計画を実行すべき時に来ています。先延ばしにすることなく物事と向かい合って、多くの人とのかかわりを持ち日々成長していきましょう。

来年度は進路を決定する大事な1年、悩み多き1年になるかと思いますが、お子様、人としての「**地力**」をつけ、夢や目標に向かって継続して努力できるよう、職員一丸となってサポートしていきたいです。保護者の皆様には、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

☆今月の生活創造コース☆

4日（金）乳幼児親子交流学習（2年）

年間を通して実施してきた交流学習も今回が最後でした。ご協力いただいた方々、ありがとうございました！

